

採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎多摩総合医療センター

○広尾病院

○駒込病院

○墨東病院

○小児総合医療センター

研修プログラムの特徴

● 多摩総合医療センター（基幹施設）

都立多摩総合医療センター施設群整形外科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：整形外科 伊賀 徹 プログラム研修期間：4年

東京 ER を有する3つの三次救急病院（多摩総合、広尾、墨東）と、がん・腫瘍（駒込）ならびに小児（小児総合）の2つの専門病院などで、豊富な症例を経験できます。

研修ローテーションのうち必修は、基幹病院である多摩総合医療センターが2年*、大学研修として東京大学（または自治医科大学）が6か月、腫瘍単位取得のための駒込病院が2か月、地域研修として日立総合病院が3か月です。残る期間は、日本整形外科学会の定める必修単位を考慮しつつ、できる限り専攻医の希望に沿って決めています。

研修は決して楽ではありませんが、意欲のある専攻医と楽しく働きたいと考えています。

* 日本整形外科学会では基幹施設研修期間を「基本的に6か月以上」と定めていますが、本プログラムでは東京医師アカデミーの規則に基づき、2年以上としています。

** 当プログラムは救急科専門医取得者のダブルボード研修を積極的に受け入れています。これまでに3名の受け入れ実績があり、指導医の一部も救急科と整形外科のダブルボードを所有しています。ダブルボード研修は、旧専門医制度に準じた「カリキュラム制」での研修ができます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	多摩総合医療センター							東京大学				
研修開始にあたり、すでに日本整形外科学会に入会をする必要があります。開始病院は多摩総合医療センターとは限りません。												
2 年次	駒込							広尾				
3 年次	小児総合			日立			多摩総合医療センター					
4 年次	多摩総合医療センター											
1 月に専門医試験を受験します。												

1月に専門医試験を受験します。

● 広尾病院（連携施設）

指導医責任者：整形外科 川野 健一

多摩総合医療センターを基幹施設とする整形外科専門研修プログラムの連携病院として、専門医資格取得に向けての研修を行っています。当院は JR 山手線内の都心部に立地しており、ほぼすべての診療科がそろった総合病院です。東京都の救急システムの中心を担う東京 ER を有し、救急診療や島しょ医療にも力を入れています。整形外科は四肢体幹の機能を再建する診療科ですが、その基本は外傷の診療であり、外傷の診断、治療（保存療法・手術療法）を若い頃にしっかり身につけておくことが、より専門的な診療へ進むための足がかりとなります。2025年度より外傷センターが発足し、一般外来での比較的軽い外傷から、救命センターを受診する高度な救急外傷まで、外傷の専門医による治療を行っており、症例も豊富で外傷治療の研修には最適です。そのみならず、手外科・上肢機能再建外科、脊椎外科、関節外科などの専門医が在籍しており、大学病院レベルの専門性の高い診療を行っております。研修開始時は外傷症例が主となりますが、指導医の元で経験に応じてより専門的な手術も経験できます。当科でのカンファレンスや抄読会、

また各種学会への参加により、進歩した新しい医学的知識を身に付けて、最終的に学会発表や学術論文を作成することを研修目標の一つとしています。

研修プログラムとしては、基幹施設である多摩総合医療センター（12カ月）、比較的稀な腫瘍性疾患に対する駒込病院での研修（3ヶ月）、地域医療研修（3ヶ月）、東京大学（6ヶ月）は指定された研修期間となりますが、その他の期間をどの施設で研修するかはある程度希望に沿うことができます。

研修コース
モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	多摩総合医療センター											
2 年次	東京大学						駒込（腫瘍）			地域		
3 年次	広尾病院											
4 年次	広尾病院						自由選択			広尾病院		

● 駒込病院（連携施設）

指導医責任者：整形外科・骨軟部腫瘍科 杉田 守礼

駒込病院は文京区の閑静な住宅街の中に佇む歴史ある病院です。古くは「駒込ピペット」で知られる感染症の研究所に始まり、現在では東京都のがん拠点病院として最先端の医療を行っています。特に他の病院で接する機会の少ない骨・軟部腫瘍は、国内有数の症例数を誇ります。また脊椎腫瘍に対して、脊椎骨全摘術などの世界トップクラスの手技を駆使して、積極的に取り組んでいます。主に脊椎疾患と人工関節を扱う整形外科と、骨・軟部腫瘍に特化した骨軟部腫瘍科とが独立して診療を行っており、定期的にカンサーボードを開催して密に連携しています。学会発表や論文執筆の機会が多く、スタッフは教育熱心ですので、多大な経験が積めると確信します。得意な分野・手術は脊椎疾患、骨・軟部腫瘍、脊椎腫瘍、人工関節です。

研修コース
モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	駒込病院・整形外科						駒込病院・骨軟部腫瘍科					
	研修開始にあたり、すでに日本整形外科学会に入会をする必要があります。開始病院は駒込病院とは限りません。											
2 年次	東大病院						地域必修（西島病院）			多摩総合		
	リサーチマインド型研修は必須で東京大学附属病院で行います。研修時期は 2 年次とは限りません。											
3 年次	多摩総合						広尾病院					
	1～4 年次のローテイト研修病院と時期及び期間はプログラム委員会にて最終決定されます。											
4 年次	墨東病院									専門医試験		自由選択

45単位取得後に専門医受験資格が得られます。

● 墨東病院（連携施設）

指導医責任者：整形外科 山川 聖史 プログラム研修期間：4年

本プログラムは、多摩総合医療センターを基幹施設とし、墨東病院、広尾病院、駒込病院および東大病院などの連携施設で研修して整形外科専門医取得を目標とします。墨東病院は、区東部医療圏の中心的急性期病院であるため、整形外科の基本である外傷研修に適した環境にあります（小児症例も豊富）。関節疾患や脊椎疾患などの一般的な変性疾患も学ぶことができます。主担当医として、入院から退院までの診断・治療を通じ、患者の全身状態、社会的背景を的確に把握し、患者ごとに適した医療を提供できることを目標とします。本研修期間には、基本的な外傷を中心に、脊椎や人工関節なども含めて、できるだけ数多くの術者を経験していただきます。また、日常診療の他に学術的な活動も重視し、地域の整形外科セミナー、整形外科関連の学会や学術講演会などに積極的に参加し、発表する機会をもちます。本プログラムに関係する基幹施設、連携施設においては、上記以外にも、手の外科、末梢神経、骨軟部腫瘍などほぼすべての領域で専門的かつ高度な医療を行っています。したがって整形外科専門医を取得の上、将来の希望のサブスペシャリティ領域に繋がる研修をすることも可能です。以上より、本プログラムにおいてはバランスのとれた研修を行うことができます。研修希望の方の応募をお待ちしています。

研修コース モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	墨東病院											
2 年次	地域医療			駒込病院			東大病院					
3 年次	多摩総合医療センター											
4 年次	多摩総合医療センター						自由選択			墨東病院		